



50万人が涙した
命の授業



ドリリー夢メーカーと

今を生きる

私は、神奈川県の中学校で体育教師をしていました。2002年3月1日、家族で長野へスキーに行きました。スキー検定1級だった私は、「俺は上手い」と思いながら滑っていました。すると、スピードを出し過ぎたためか、雪のコブに乗り上げてバランスを崩し、大きく一回転して後頭部から雪面に激突してしまったのです。「バキッツツッ！」という大きな音と共に頸椎を骨折し、斜面を数十m転がり落ちました。4時間もの緊急手術によって一命はとりとめたものの、麻酔から覚めた私は、首から下が全く動かないことに気がつき、大きなショックを受けました。医師からは「寝たきりか、良くても車椅子生活です」と宣告を受

け、私は「ああ、俺の人生は終わった。死にたい…」と人生に絶望し、自殺を考えるまでになりました。ある日、病院のベッドに寝たまま、ふと窓際の花が目に入り、その美しさにハッとしました。花は誰にもほめられなくても、一生懸命咲いています。「身体が全く動かなくても、花のように生きることはできるかもしれない…」その日から私は、今のすべてを受け入れて、いつも笑顔でいる、どんなことにも「ありがとう」を言おうと決めました。そしたら、全く動かなかつた手足が、事故から10日後、だんだん動き始めてくれたのです。そんな私に希望を与えてくれたのは、3年1組の教え子達でした。生

徒達は、「腰塚先生と一緒に卒業したい！」と学校に訴えてくれ、完全復活と書いたボードに励ましのメッセージをびっしり書いて贈ってくれました。同僚の先生達も何度も見舞いに来てくれました。私は必ず担任として学校に戻る！と決意しました。

私を応援してくれる多くの人達のお蔭で、厳しく辛いリハビリにも耐え、私は4カ月で奇跡的な回復を遂げました。両脚の感覚障がいや排泄障がい、右半身の麻痺が残ったものの、どうにか一人で歩けるようになり、6月24日に担任として学校へ戻ることができました。しかし、体育の教師ができなくなってしまうことは、私にとり重苦しい現実でした。

そんな中、マスコミでは子どもたちのいじめ、自殺、不登校、親による子どもへの虐待のニュースが流れ続けていました。子どもたちの命を守り輝かせたい、応援したい。そんな思いが強くなり、教師を辞めて「命の授業」をやることを決めました。2010年4月から命の講演会を始め、47都道府県

「命の授業」講演家

腰塚勇人